「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

（当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください）

	平成 26 年 5 月 24 日
所属部局・職	自然人類学教室　修士課程学生
氏　名	川田美風

１．派遣国・場所（○○国、○○地域）

屋久島

２．研究課題名（○○の調査、および○○での実験）

ヤクザルの分布調査

３．派遣期間（本邦出発から帰国まで）

平成 26 年 5 月 13 日　～　平成 26 年 5 月 19 日　（6 日間）

４．主な受入機関及び受入研究者（○○大学○○研究所、○○博士／○○動物園、キュレーター、○○氏）

京都大学 PWS ハウス屋久島

５．所期の目的の遂行状況及び成果（研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由）

写真（必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの）の説明は、個々の写真の直下に入れること。
別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。

フィールド科学実習（屋久島実習）に参加した。屋久島は九州南部に位置する島で、世界自然遺産にも登録されている。屋久島にはニホンザルの亜種であるヤクザル（*Macaca fuscata yakui*）が生息している。ヤクザルは、2000 年まで IUCN のレッドリストにおいて Endangered（E）に登録されていたが、2008 年には Least Concern（LC）とされた。しかし、この 20 年間でヤクザルの頭数は減少しており、農作物被害も減少している。一方捕獲頭数は増加しており、私たちは島内のヤクザルの分布に対する人的影響を明らかにするため、現在のヤクザルの分布を調査した。

実習日程
13 日　飛行機で伊丹空港から屋久島空港へ、その後レンタカーで PWS ハウス屋久島に移動。
　　買い出しや用具準備　西部林道にてフィールドワーク実施
14 日　フィールドワーク
15 日　宮之浦岳登頂　フィールドワーク
16 日　フィールドワーク
17 日　データ解析、発表準備
18 日　発表　バーベキュー　ウミガメ観察
19 日　レンタカーで白谷山地へ移動　散策
　　レンタカーで屋久島空港へ　その後飛行機で伊丹空港へ

今回の実習で私は、ヤクザルの糞、食痕、鳴き声、そして直接観察といった手法を用いて分布調査を行った。初日の西部林道では、ヤクザルの姿を直接確認できることが多く、実際に糞をする場を確認した固体の糞サンプルを採取することができた。直接姿を確認することができた場合は、性別、年齢（成人か否か）などを確認し記録を行った。講師陣は、オスらしさ、メスらしさというようなものでも性の判別が可能な様子であったが、私の場合、睾丸の有無を確認することも一苦労であった。また、ヤクザルを直接近距離で観察することができたのは、初日の西部林道においてのみであったので、未だサルの性の判別には不安が残る。

二日目は、屋久島最高峰宮之浦岳山頂を目指し、フィールドワークを行った。山の中で遊ぶことはあっても、本格的な登山というのは初めてであったので、事前に歩く距離、時間を伝えられてもよく分からなかった。登山に夢中になり、講師の本田さんが指摘して下さるまでサルの鳴き声に気づくことができなかった。フィールドワークを行う際は視覚のみに頼るのではなく、聴覚、嗅覚的にも注意を向けておかないといけないと感じた。

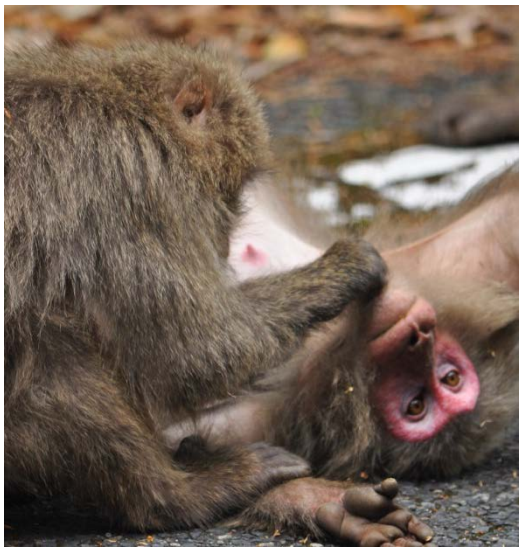
私は今までフィールドワークの経験が無く、屋久島実習以前はたとえ国内であっても山の中を単独で歩くことなど考えもしなかった。実習 3 日目の単独でのフィールドワークを行う前は、自身で正確に記録が取れるのか、山道を迷わず調査することができるのかなど多くの不安があった。しかし、実際に山中を歩いてみると 1、2 日目の経験もあり、いくつかのサンプル、記録を得、大きな問題もなく調査を終えることができたので、自信を持つことができた。

データ解析を行うにあたり、パソコンを使うための基本的な学習の必要性を強く感じた。また、今回の

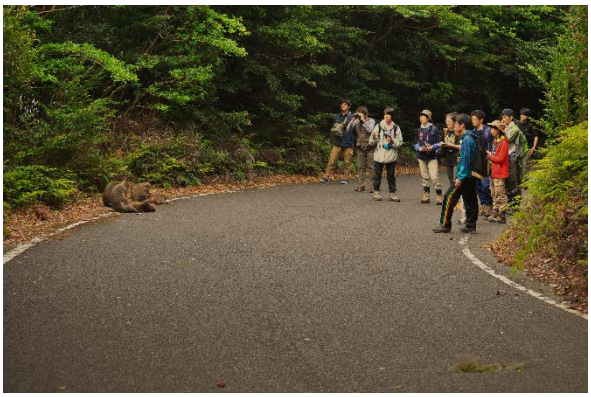
実習の公用語は英語であり、データ処理についての会話にあまり参加できず、理解が遅れてしまったため、英語の学習の必要性を強く感じた。発表まであまり時間が無かったため、自分の担当した作業以外の情報を十分に得ることができず、情報共有、グループワークの難しさも実感した。

結果として集落付近ではサル、サル糞の発見頻度は低下した。捕獲の行われていない西部地域、国有林内ではサルの発見頻度が沿岸部付近でも高いことから、捕獲によるサルの分布域への影響が考えられる。今回の実習では島内全域を調査することはできなかったためヤクザル分布に対する人的影響について詳しく知るためにはさらなる調査が必要であると考えられる。

今回の実習では、フィールドワーク、そしてデータ整理、解析の難しさを実感することができた。将来、野生動物を実際に観察することは少ないと思うが、今回実際にフィールドワークを経験することによって、実地での調査についての具体的なイメージを持つことができた。また、山歩きなどの経験は、今後フィールドにでる際のいい練習の場となったと思う。



毛づくろいを行うヤクザル



直接観察

６．その他（特記事項など）

今回の実習を行うにあたり、大変丁寧にご指導をして下さった半谷様、本郷様、栗原様、本田様に深く感謝致します。また、実習の開催に協力して下さった PWS にも深く感謝致します。ありがとうございました。